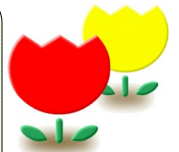


# 市民力かわら版



## 矢板の花・水・木 矢板の花、ツツジを花フェスタで咲かせよう!

「とちぎ花フェスタ2012 in やいた」が、二月十日から三日間にわたって開かれた。今年で十四回目となる花に関わりを持つ人にとっては県内で最大のイベントだが、県北では大田原に次いで二回目となる。

この花フェスタで矢板市のブースを飾ったのが矢板市花き生産者会のメンバー八人(相馬宗司会長)と矢板生花商組合のメンバー五人(斉藤信夫代表)。  
準備の中でのさまざまな苦労について相馬会長にお話を伺った。

●ツツジが思うように咲かない!

花き生産者組合の打ち合わせの中で「矢板の花、ツツジを花フェスタで咲かせよう!」と夏頃から準備を始めました。しかし、加温してから開花までに必要な日数や積算温度などについて情報の幅があり、方法は分かっているにも細かいデータが無かったので、思っ

た以上に苦労しました。多方面からの情報を元に、鉢の周りを電熱器で囲んだり、水管理に温水を使うなど、試行錯誤しながら、胃の痛くなる思いで管理しました。

そんな苦労の甲斐あって、開会日の5日くらい前には三分咲きにまで花が開きホッとしました。

●少人数だったでできた・少人数だからできた。

人と人の情報交流が一番大事だと痛感しました。コミュニケーションを密に取らないと、花を集めることも咲かせることができません。今回の矢板のグループは少ないメンバーでしたが、その分コミュニケーションもよく取れ、人任せにせず、小回りがきいたと思います。

十二月三十日と一月五日の二回、長峰公園と、幸岡の大沢さんに提供してもらったツツジを鉢上げする作業には、寒い中全員が集まって掘り上げ、移設する作業を行いました。

た。市や県のスタッフも一緒に汗を流し、責任感が各メンバーに生まれたと思います。



花フェスタの前日、加温ハウスでツツジの様子をみんなで確認

●花屋さんとの連携で作った「たかはら山麓花・水・木」

矢板市のブーシ展示のデザインは生産者と花屋さんが集まって全員で考えて決めました。今回の花フェスタのテーマ「早春のたかはら山麓花だより」にあわせたデザイン

にするために、高原山から流れる水と、そこで育ついろいろな花やリンゴの木をイメージし、「たかはら山麓花・水・木」というテーマが決まりました。

実際の飾花・ディスプレイはすべて飾るプロである花屋さんにお任せしました。我々生産者は花を栽培するプロですが、一般入場者と同じ見側の立場で総体的に見ることができました。お互いの目線の違いが良い方に向いたと感じています。

●花フェスタに参加して

今まで、矢板の生産者同士の交流はほとんどなく、今回の花フェスタが一緒になって何かをやる初めてのケースとなりました。「これからの自分たちの花栽培をどう展開していくか?」ということが全員に共通のテーマになり、これからの交流の中で何が出てくるか楽しみです。

花より団子のこの時代、花はどんな位置づけになるのか? 花フェスタは、団子より花をピーアールできる絶好の機会になったと考えています。

(O&S・M)